

クイック

4318 東証 1 部

<https://919.jp/ir/>

2016 年 12 月 21 日 (水)

Important disclosures
and disclaimers appear
at the back of this document.

企業調査レポート
執筆 フィスコアナリスト
清水 さくら

[企業情報はこちら >>>](#)

■ 通期業績予想は超過達成の可能性、M&A で事業拡大も

クイック<4318>は、リクルーティング事業及び人材サービス事業を両輪に事業を展開している総合人材サービス企業。特に人材サービス事業においては、数ある人材サービス企業の中でも、看護師などの専門職に特化した人材紹介に強みがあり、差別化戦略が奏功している。また、子会社の運営サイト「日本の人事部」は人事に特化した充実した内容を提供している。

(1) 保守的な計画、特に今期の業績予想は超過達成の可能性が高い

2017 年 3 月期の第 2 四半期連結業績は、売上高が前年同期比 18.7% 増の 7,445 百万円、営業利益が同 20.8% 増の 1,540 百万円、経常利益が同 21.4% 増の 1,582 百万円、親会社株主に帰属する四半期純利益は同 25.1% 増の 1,074 百万円だった。

同社が公表している 2017 年 3 月期の連結業績予想は、売上高が前期比 8.8% 増の 13,600 百万円、営業利益が同 4.9% 増の 1,770 百万円。第 2 四半期決算時点での通期業績予想に対する進捗率は売上高で 54.7% にとどまったものの、営業利益段階で 87.0% に到達したが、据え置かれた。その理由として、第 3 四半期における広告宣伝費の大規模投入などの費用の増加が挙げられた。しかしながら、説明会の質疑応答において増額が示唆された費用は 150 ~ 200 百万円程度であり、実際に増額幅がその程度でとどまり他の費用においても大きな計画外の計上がない限り、同社の通期業績予想は上方修正される可能性があると言えるだろう。

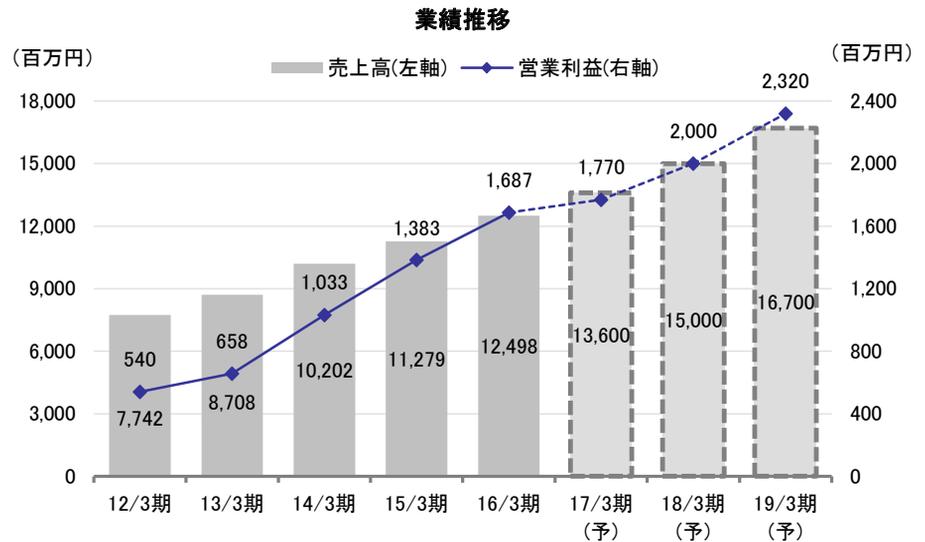
また、同社は每期ローリング方式の 3 ヶ年の中期経営計画を発表しているが、この計画数値も控えめである。現在の事業の自然な増減しか加味しておらず、事業の拡大要素は織り込まれていないからだ。このため、計画値の見直しが行われれば、急激な景気悪化などがない限り、こちらも増額修正になる可能性があると言える。

(2) M&A に意欲的、長期的な事業拡大への布石になるか

同社は、M&A に積極的な姿勢を堅持しているが、こちらも中期経営計画数値には織り込んでいない。同社の成長を加速させるような有望な買収案件が近い将来に結実され、株価のカタリストになることを期待したい。

■ Check Point

- ・ 2017 年 3 月期は会社予想数値を超過達成する可能性がある。事業環境が急変しない限り、毎期見直されている中期経営計画数値の増額修正も見込める
- ・ 構造的な好事業環境に甘んじることなく、新規事業や海外事業の深掘りを進める
- ・ M&A で事業拡大へ



出所：短信、会社説明会資料よりフィスコ作成

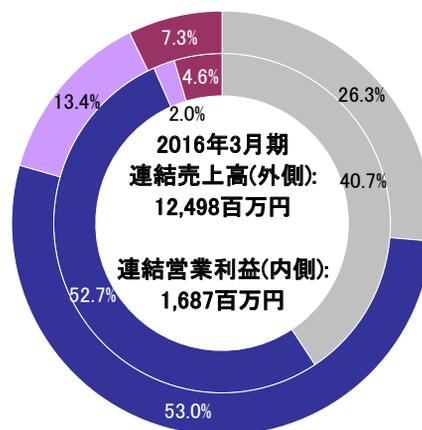
■ 売上高・営業利益の構成

リクルーティング事業、人材サービス事業が 2 本柱

同社の 2016 年 3 月期の売上高は、リクルーティング事業が 26.3%、人材サービス事業が 53.0%、情報出版事業が 13.4%、その他が 7.3%。同営業利益(調整額を除く)段階では、リクルーティング事業が 40.7%、人材サービス事業が 52.7%、情報出版事業が 2.0%、その他が 4.6%と、リクルーティング事業と人材サービス事業が大きな柱となっている。

セグメント別売上高・営業利益構成

■ リクルーティング事業 ■ 人材サービス事業 ■ 情報出版事業 ■ その他



出所：会社説明会資料よりフィスコ作成

注：連結営業利益の構成比はマイナス値である調整額を除外して算出

注：「その他」の区分には「ネット関連事業」及び「海外事業」含む

すべての事業において業績が順調

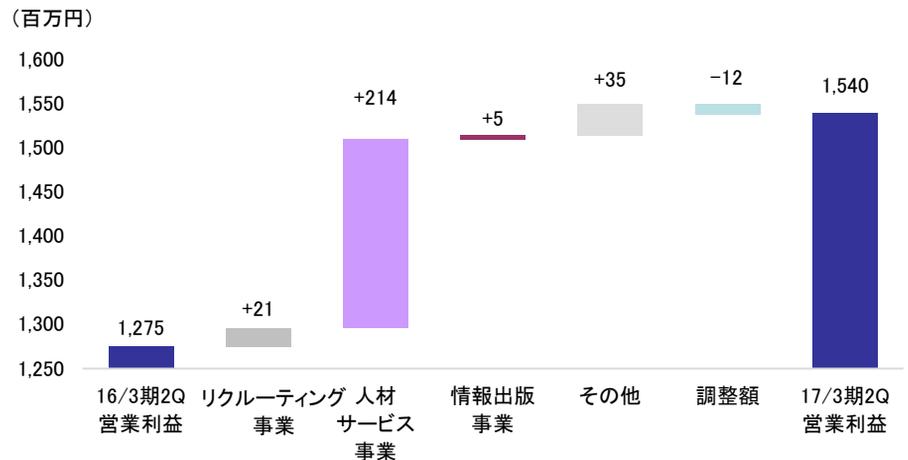
(1) 好調な 2017 年 3 月期第 2 四半期決算と保守的な通期業績予想

2017 年 3 月期の第 2 四半期連結業績は、売上高が前年同期比 18.7% 増の 7,445 百万円、営業利益が同 20.8% 増の 1,540 百万円、経常利益が同 21.4% 増の 1,582 百万円、親会社株主に帰属する四半期純利益は同 25.1% 増の 1,074 百万円だった。上期の計画値は、売上高が 6,915 百万円、営業利益が 1,306 百万円で、それぞれ 7.7%、18.0% 予想を上回って着地した。

(2) リクルーティング事業及び人材サービス事業も好調

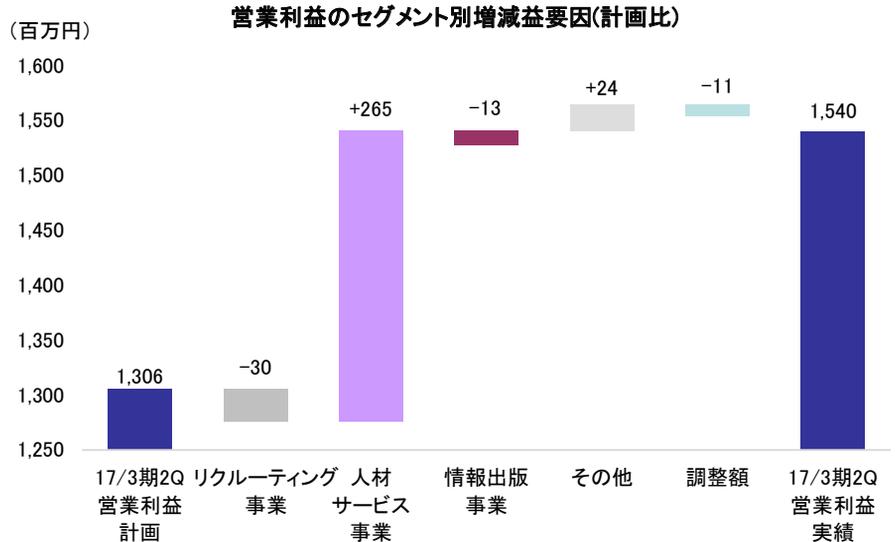
前年同期との比較では、すべての事業において業績が順調に推移し、リクルーティング事業及び人材サービス事業では、少子高齢化による労働人口の減少を背景に業績が拡大した。リクルーティング事業では、派遣スタッフやアルバイト・パート求人広告の取扱いが好調で、新卒採用分野も順調に伸び、リクルーティング事業における売上高は前年同期比 13.7% 増の 1,494 百万円、営業利益は同 7.0% 増の 329 百万円となった。人材サービス事業でも、看護師・介護士などの医療・福祉分野の旺盛なニーズに加えて、建築・土木・製造分野においても採用意欲は高く、業績は順調に拡大、売上高は同 22.9% 増の 4,611 百万円となった。人材サービス事業では、競争激化が進んだため登録者獲得を目的にプロモーション費用を計上したものの、営業利益は同 17.9% 増の 1,415 百万円と 2 ケタの増益を達成できた。情報出版事業では、タウン広告の取扱いが好調で売上高は同 9.3% 増の 861 百万円、営業利益は同 985.0% 増の 5 百万円となった。その他に含まれるネット関連事業及び海外事業も順調で、売上高が同 13.7% 増の 479 百万円、営業利益が同 112.0% 増の 67 百万円となった。ネット関連事業では、子会社の運営サイト「日本の人事部」の広告収入が順調に拡大し、海外事業ではロサンゼルス、ニューヨーク、上海における事業が改善した。

営業利益のセグメント別増減益要因(前年同期比)



出所：会社説明会資料よりフィスコ作成

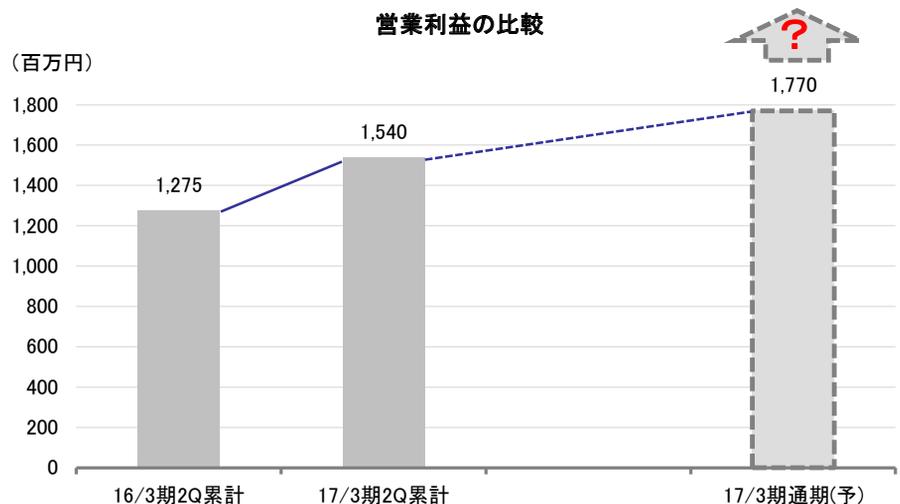
営業利益については、会社計画比でも人材サービス事業は予想を 265 百万円超過し、好調が際立った。未達になったのは、リクルーティング事業と情報出版事業であったが、それぞれ計画比 30 百万円の未達、同 13 百万円の未達であった。その他は同 24 百万円で超過達成となった。



出所：会社説明会資料よりフィスコ作成

(3) 極めて高い進捗率

同社が公表している 2017 年 3 月期の連結業績予想は、売上高が前期比 8.8% 増の 13,600 百万円、営業利益が同 4.9% 増の 1,770 百万円、経常利益が同 4.8% 増の 1,820 百万円、親会社株主に帰属する当期純利益は同 5.8% 増の 1,238 百万円であり、第 2 四半期決算時点での通期業績予想に対する進捗率は、売上高で 54.7% にとどまったものの、営業利益及び経常利益段階では 87.0% に到達、親会社株主に帰属する四半期純利益段階でも 86.8% と極めて高い。通期予想の増額修正をしなかった理由として、第 3 四半期における広告宣伝費の大規模投入を計画しており、その額をまだ決定していないためと同社の説明会において言及があった。転職志望者が転職するまで 3 ～ 6 ヶ月程度の時差があるため、転職時期となる来春向けの登録者については、今第 3 四半期で広告投入することで転職志望者における認知度を上げ、登録者数を獲得することが必要となっているようだ。しかしながら、説明会における質疑応答で示唆された広告宣伝費の増額幅は 150 ～ 200 百万円程度であり、同社の規模でその程度でとどまり他の費用の急拡大がないならば、同社の通期業績予想はまだ保守的と判断せざるを得ない。好材料を効果的に株価に織り込むためにも、増額修正が必要となる場合はなるべく早期の公表を期待したい。



出所：短信よりフィスコ作成

クイック

4318 東証 1 部

<https://919.jp/ir/>

2016 年 12 月 21 日 (水)

(4) 3ヶ年の中期経営計画で提示されている業績予想も控え目

同社は、2017年3月期の業績予想のほか、2019年3月期までの計画数値も公表している。2017年3月期は既述の業績予想のとおりだが、2018年3月期の計画では、売上高が15,000百万円、営業利益が2,000百万円、経常利益は2,050百万円、親会社株主に帰属する当期純利益が1,394百万円、2019年3月期は売上高が16,700百万円、営業利益が2,320百万円、経常利益が2,370百万円、親会社株主に帰属する当期純利益が1,611百万円となっている。2017年3月期見通しと同様に、同社はこの中期経営計画についても多少狂いが生じる可能性があるとの見方が説明会において示された。質疑応答で確認できたのは、これらの数字が現在の事業の自然な増加分のみを加味しており、同社は人材紹介において新たな専門職の横展開を目指しているようだが、現時点では織り込まれていないことだ。特に、これらの中期経営計画数値には、経常利益率の計画数値も公表されており、2016年3月期実績の13.9%に対し、2017年3月期に13.4%、2018年3月期に13.7%、2019年3月期に14.2%と、2019年3月期に2016年3月期の水準を超えるという想定。同社によると特段顕在化しやすいダウンスайд・リスク要因を見込んでいる訳ではなく、弊社では極めて保守的とみる。また、同社について市場で十分に理解が進んでいるとは言えない状況で、公表値のみが理解されていると考えられ、株価は適正水準より低く見積もられている可能性がある。直近4ヶ年の業績推移に比べて今期以降3ヶ年の中期経営計画はその増収増益の上昇角度が緩やかになっており、成長の鈍化と疑ってしまうが、マクロ環境や同社の事業環境が急激に悪化しない限り、増額修正される可能性があると思われる。

同社は、ローリング方式で毎期、中期経営計画数値を見直している。増額修正があれば、これらの数値が控えめであることが認知され株価上昇へのカタリストとなることを期待したい。

簡易版連結財務諸表 - P/L

(単位：百万円)

| | 15/3期 | 16/3期 | 17/3期(予) | 18/3期(予) | 19/3期(予) |
|-----------------|--------|--------|----------|----------|----------|
| 売上高 | 11,279 | 12,498 | 13,600 | 15,000 | 16,700 |
| 前期比 | 10.6% | 10.8% | 8.8% | 10.3% | 11.3% |
| 売上原価 | 4,845 | 5,170 | 5,536 | 6,180 | 6,990 |
| 前期比 | 4.9% | 6.7% | 7.1% | 11.6% | 13.1% |
| 売上総利益 | 6,434 | 7,328 | 8,064 | 8,820 | 9,710 |
| 前期比 | 15.3% | 13.9% | 10.0% | 9.4% | 10.1% |
| 販管費 | 5,050 | 5,640 | 6,294 | 6,820 | 7,390 |
| 前期比 | 11.1% | 11.7% | 11.6% | 8.4% | 8.4% |
| 営業利益 | 1,383 | 1,687 | 1,770 | 2,000 | 2,320 |
| 前期比 | 33.8% | 22.0% | 4.9% | 13.0% | 16.0% |
| 経常利益 | 1,483 | 1,737 | 1,820 | 2,050 | 2,370 |
| 前期比 | 37.6% | 17.1% | 4.8% | 12.6% | 15.6% |
| 親会社株主に帰属する当期純利益 | 988 | 1,170 | 1,238 | 1,394 | 1,611 |
| 前期比 | 48.5% | 18.4% | 5.8% | 12.6% | 15.6% |

出所：有価証券報告書等よりフィスコ作成

簡易版連結財務諸表 - B/S

(単位: 百万円)

| | 14/3 期 | 15/3 期 | 16/3 期 |
|--------------------------|--------|--------|--------|
| 流動資産 | 3,863 | 5,137 | 5,488 |
| 現金及び預金 | 2,431 | 3,151 | 3,430 |
| 棚卸資産 | - | - | - |
| 固定資産 | 1,348 | 1,647 | 1,842 |
| 有形固定資産 | 700 | 662 | 728 |
| 総資産計 | 5,212 | 6,785 | 7,331 |
| 流動負債 | 1,990 | 2,639 | 2,471 |
| 短期借入金・ 1 年内返済予定の長期借入金 | 261 | 203 | 191 |
| 固定負債 | 79 | 168 | 151 |
| 社債・長期借入金 | 11 | - | - |
| 負債計 | 2,069 | 2,808 | 2,622 |
| 株主資本 | 3,099 | 3,711 | 4,466 |
| 非支配株主持分 | 11 | 11 | - |
| 純資産計 | 3,142 | 3,977 | 4,708 |

出所: 有価証券報告書

簡易版連結財務諸表 - C/F

(単位: 百万円)

| | 14/3 期 | 15/3 期 | 16/3 期 |
|------------------|--------|--------|--------|
| 営業活動によるキャッシュ・フロー | 819 | 1,242 | 954 |
| 投資活動によるキャッシュ・フロー | ▲ 41 | ▲ 64 | ▲ 221 |
| 財務活動によるキャッシュ・フロー | ▲ 225 | ▲ 466 | ▲ 452 |
| 現金及び現金同等物の期末残高 | 2,401 | 3,121 | 3,400 |

出所: 有価証券報告書

| | 15/3 期 | 16/3 期 | 17/3 期 (予) | 18/3 期 (予) | 19/3 期 (予) |
|-----------------------------|---------|---------|---------------|---------------|---------------|
| < 収益性分析 > | | | | | |
| 売上高売上総利益率 (%) | 57.0 | 58.6 | 59.3 | 58.8 | 58.1 |
| 売上高営業利益率 (%) | 12.3 | 13.5 | 13.0 | 13.3 | 13.9 |
| 売上高経常利益率 (%) | 13.1 | 13.9 | 13.4 | 13.7 | 14.2 |
| 売上高親会社株主に帰属する 当期純利益率 (%) | 8.8 | 9.4 | 9.1 | 9.3 | 9.6 |
| EPS (円) | 52.61 | 62.30 | | | |
| 潜在株式調整後 EPS (円) | - | - | | | |
| BPS (円) | 211.09 | 250.64 | | | |
| DPS (円) | 21.00 | 25.00 | | | |
| 配当性向 (%) | 39.9 | 40.1 | | | |
| ROA (%) | 24.7 | 24.6 | | | |
| ROE (%) | 27.9 | 27.0 | | | |
| 総資産回転率 (回) | 1.88 | 1.77 | | | |
| < 安全性分析 > | | | | | |
| 自己資本比率 (%) | 58.4 | 64.2 | | | |
| D/E レシオ (倍) | 0.05 | 0.04 | | | |
| 流動比率 (%) | 194.7 | 222.1 | | | |
| 固定比率 (%) | 41.5 | 39.1 | | | |
| 固定長期適合比率 (%) | 39.9 | 37.9 | | | |
| ネット・デット(キャッシュ)(百万円) | ▲ 2,947 | ▲ 3,239 | | | |
| 有利子負債 (百万円) | 203 | 191 | | | |
| 現金及び預金 (百万円) | 3,151 | 3,430 | | | |

出所: 有価証券報告書、短信、有価証券報告書及び短信よりフィスコ作成

■ M&A による事業拡大は今後の増収要因になるか

同社は M&A について積極的な姿勢を示している。内容にもよるが、良い案件であれば同社の成長性を将来加速させる材料になると思われる。今後の展開に期待したい。

ディスクレーマー（免責条項）

株式会社フィスコ（以下「フィスコ」という）は株価情報および指数情報の利用について東京証券取引所・大阪取引所・日本経済新聞社の承諾のもと提供しています。“JASDAQ INDEX”の指数値及び商標は、株式会社東京証券取引所の知的財産であり一切の権利は同社に帰属します。

本レポートはフィスコが信頼できると判断した情報をもとにフィスコが作成・表示したものです。その内容及び情報の正確性、完全性、適時性や、本レポートに記載された企業の発行する有価証券の価値を保証または承認するものではありません。本レポートは目的のいかんを問わず、投資者の判断と責任において使用されるようお願い致します。本レポートを使用した結果について、フィスコはいかなる責任を負うものではありません。また、本レポートは、あくまで情報提供を目的としたものであり、投資その他の行動を勧誘するものではありません。

本レポートは、対象となる企業の依頼に基づき、企業との電話取材等を通じて当該企業より情報提供を受けていますが、本レポートに含まれる仮説や結論その他全ての内容はフィスコの分析によるものです。本レポートに記載された内容は、資料作成時点におけるものであり、予告なく変更する場合があります。

本文およびデータ等の著作権を含む知的所有権はフィスコに帰属し、事前にフィスコへの書面による承諾を得ることなく本資料およびその複製物に修正・加工することは強く禁じられています。また、本資料およびその複製物を送信、複製および配布・譲渡することは強く禁じられています。

投資対象および銘柄の選択、売買価格などの投資にかかる最終決定は、お客様ご自身の判断でなさるようお願いいたします。

以上の点をご了承の上、ご利用ください。

株式会社フィスコ